

平成25年度 東京都作業療法士会パイロット事業報告

地域への作業療法士配置に向けた人材育成 「特別支援学校への人材派遣モデル作成と他領域への応用」

一般社団法人東京都作業療法士会

平成25年度パイロット事業実行委員長

首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法科学域

伊藤 祐子

背景

- 平成18年学校教育法の一部改正および、平成19年4月すべての学校における特別支援教育実施スタート
- 特別支援教育の対象は従来の心身に明らかな障害を有する肢体不自由や知的障害、盲、聾などに加え、平成17年施行の発達障害者支援法で定義される、ASDなど発達障害の児童生徒を含み幅広くなった
- 特別支援教育は対象児の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立つ
- 特別支援教育は、個々人の教育や発達ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う
- 特別支援教育は、従来の養護学校(現・特別支援学校)、盲学校、聾学校、普通校特殊学級のみならず、普通校特別支援学級、普通校通級指導教室、普通学級で行われる
- 発達障害者支援法では、医療、保健、福祉、教育及び労働に関する業務を担当する関連機関相互の緊密な連携の必要性を述べており、特別支援教育の現場でも作業療法士を含む外部専門家との連携が進みつつある

東京都の現状

- 東京都特別支援教育実施計画第三次実施計画推進中 (平成22年～28年)
- 平成24年6月都立知的障害特別支援学校における外部人材の導入に関する検証委員会が設置された
- 主な議題は、平成28年度までに都内すべての知的障害特別支援学校に外部専門家(OT・PT・ST・CP 等)を導入するに当たっての人材確保や学校教員と外部専門家達との連携の在り方であった
- 知的障害特別支援学校へ、平成24年度に3校、今年度は新たに6校が外部人材として作業療法士を導入したが、その確保は学校独自のルートで行われていた
- 各校に常勤配置か非常勤か、あるいは地区別雇用とするか等は、今後審議される

作業療法士の現状

- 日本作業療法士協会では、第二次作業療法5ヵ年戦略（2013-2017）の重点事項として、特別支援教育への参画を謳っている
- 発達障害領域の作業療法士は、国内の作業療法士全体の約3%と非常に少ない
- 東京都においても全都士会員に占める割合は非常に少ない
- 発達障害領域の地域支援に関する人材育成は、東京都では必ずしも十分とは言えない
- 現状では、平成28年度までに東京都教育委員会から全ての特別支援学校への作業療法士の配置を要請された場合、その需要に応える供給は難しいと言わざるを得ない

特別支援校とOT導入の現状(肢体)

18校(内17校導入)

 : OT導入校

● 光明特別支援学校 ● 小平特別支援学校 ● 北特別支援学校 ● 城南特別支援学校 ● 城北特別支援学校 ● 村山特別支援学校	● 町田の丘学園(肢・知併置校) ● 八王子東特別支援学校 ● 大泉特別支援学校 ● 多摩桜の丘学園(肢・知併置校) ● 墨東特別支援学校 ● あきる野学園(肢・知併置校)	● 永福学園(肢・知併置校) ● 青峰学園(肢・知併置校) ● 府中けやきの森学園(肢・知併置校) ● 志村学園(肢・知併置校) ● 鹿本学園(肢・知併置校) ● 東部地区学園特別支援学校(仮称)開設準備室(肢・知併置校)
--	--	---

2013.9.30現在

特別支援校とOT導入の現状(知的)

● 青島特別支援学校	● 小金井特別支援学校	● あきる野学園(肢・知併置校)
● 王子特別支援学校	● 水元特別支援学校	● 南花畑特別支援学校
● 王子第二特別支援学校	● 墨田特別支援学校	● 田園調布特別支援学校
● 八王子特別支援学校	● 江東特別支援学校	● 永福学園(肢・知併置校)
● 武蔵台学園(知・病併置校)	● 中野特別支援学校	● 多摩桜の丘学園(肢・知併置校)
● しいの木特別支援学校	● 足立特別支援学校	● 青峰学園(肢・知併置校)
● 七生特別支援学校	● 清瀬特別支援学校	● 久我山青光学園(視・知併置校)
● 町田の丘学園(肢・知併置校)	● 葛飾特別支援学校	● 品川特別支援学校
● 高島特別支援学校	● 港特別支援学校	● 府中けやきの森学園(肢・知併置校)
● 矢口特別支援学校	● 石神井特別支援学校	● 練馬特別支援学校
● 羽村特別支援学校	● 白鷺特別支援学校	● 志村学園(肢・知併置校)
● 調布特別支援学校	● 板橋特別支援学校	● 青山特別支援学校
	● 田無特別支援学校	● 鹿本学園(肢・知併置校)
	● 南大沢学園	● 東部地区学園特別支援学校(仮称)開設準備室(肢・知併置校)

40校(内9校導入)

■ : OT導入校

2013.9.30現在

パイロット事業の目的

- 今回のパイロット事業では特に、**特別支援学校**で活躍できる作業療法士の人材育成プログラムを開発を主軸に以下の3点を目的とした
 - ①人材育成のためのカリキュラム作成
 - ②人材育成のための研修会の実施
 - ③派遣人材バンク登録モデルおよびオンラインリカレント教育事業の企画

パイロット事業実行委員会

- 発達障害領域を専門とする作業療法士および、他領域からの人材育成を視野に入れ、発達障害以外を専門とする委員を加え、以下の6名を実行委員とした

伊藤祐子（首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法科学域）

小林法一（首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法科学域）

田辺美樹子（自宅・知的障害特別支援学校教育支援員）

酒井康年（うめだ・あけぼの学園）

波多野裕子（東京都立志村学園）

小野寺泰子（東京都立品川特別支援学校）

①人材育成のためのカリキュラム作成

- 実行委員による、カリキュラム検討会の実施
- 都士会員全員に対する「特別支援教育への就労に関する作業療法士の意識についてのアンケート(全数調査)」を実施
- 既に外部専門家として特別支援学校に関与しているOTに「実務者向けアンケート」を実施

アンケートを行うことにより、会員の意識、現場での問題点、課題、研修会に望むことなど、研修会に盛り込むべき内容を収集

特別支援教育への就労に関する 作業療法士の意識(全数調査)

1) アンケートの目的

特別支援教育への就労に関する作業療法士の関心や意識について、以下の4点を明らかにする。

- (1) 特別支援学校等で働くことに対する都内作業療法士の関心の程度
- (2) 希望の勤務形態
- (3) 人材育成プログラムに期待する研修内容
- (4) 転職に伴う不安

2) 調査実施期間: H25年11月～H26年1月

3) 対象者および実施方法

(1) 対象者

平成25年11月19日現在における東京都作業療法士会の正会員全数(2267名)を対象とした。

(2) 実施方法

返信ハガキで回答を求める質問紙郵送法とした。アンケートの配布は、全会員に郵送される東京都作業療法士会ニュースを利用した。平成25年11月発行の「東京都作業療法士会ニュースNo.153」に依頼文および質問項目を記載したハガキを同封し、投函されたハガキを回収した。

全数調査結果

- 有効回収率11.5%
- 回答者の70%が、特別支援教育領域への就労に興味あり
- OT経験年数が短い程、興味の度合いが強い傾向
- 現在の職域が小児分野以外の回答者も関心がある
- 常勤の雇用形態を希望する割合が高い
- 回答者の80%が、人材育成研修会への参加希望あり
- 自由意見の内容は、以下3点に大別された
 - 特別支援教育分野に対する《興味と期待》に関するもの
 - 《転職に当たっての不安》に関するもの
 - 特別支援教育分野における作業療法を開拓・展開していくための様々な《対策》の必要性に関するもの

対策には研修会内容への希望が多数含まれた。主に、「**初歩的知識**」「**体系的知識**」「**OT実践の知**」「**担当業務・役割**」「**学校の文化・社会**」の内容が求められていた

結果の詳細は報告書をご参照ください。

特別支援教育領域OT実務者への アンケート調査（実務者調査）

1) 目的

この調査は、東京都内の特別支援教育における作業療法の現状について概要を把握し、当事業で取り組むべき課題や人材育成研修内容への示唆を得ることを目的として実施した

2) 方法

都内の特別支援学校に外部専門家として勤務する作業療法士に、メールまたは郵送にて依頼文及びアンケート用紙を送付し調査を実施した

3) 調査内容

氏名(任意)、OT協会会員番号(任意)、性別、年齢、OT経験年数、発達障害領域経験年数、特別支援教育経験年数、仕事先区分と頻度、仕事内容、特別支援教育における困難感、本事業研修会への要望、これから特別支援にかかわる人材へのアドバイス、その他(自由記載)

実務者調査結果

- 16名の回答
- 現場での仕事内容は、「児童生徒に対して」「教員に対して」「保護者に対して」に大別され、内容は多岐にわたっていた
 - 児童に対して: 身体機能、姿勢の評価と支援、環境調整というキーワードが多く含まれていた
 - 教員に対して: 対象生徒のアセスメント結果を担当教員に報告するとともに具体的な助言・指導・アドバイスの実施
- 現場で難しいこと: 「“学校”についての理解」「教員とのコミュニケーション」「外部専門家支援のシステム」「作業療法士の経験と技量」に分類された
- 人材育成研修会に期待すること: 「具体的な環境調整方法」「参加やコミュニケーション評価法」「良いモデルの提示」「必要最低限の知識」「これから関わるひとへのエンパワメント」など

結果の詳細は報告書をご参照ください。

カリキュラム作成

- アンケート結果および実行委員の意見を統合し、2日間の研修会カリキュラムを作成した

1日目

特別支援教育に関わる際の基礎知識

主たる内容としては、発達障害及び発達障害領域作業療法に関する基礎知識や、発達障害に関わる関連職種 of 専門知識で知っておくべきものを取り上げた。

次の4つの講義を設定した。1つの講義は90分で実施した。

- (1) 発達障害に関する基礎知識
- (2) 各種疾患に関する基礎知識
- (3) アプローチ法に関する基礎知識
- (4) 評価に関する基礎知識

2日目

外部専門家としての必須知識

東京都教育委員会が進めている特別支援学校における外部専門家導入事業への参画を主とし、特別支援学校の外部専門家導入事業に携わる意思がある、作業療法士を対象に想定した。

次の5つの講義を設定した。講義時間は、各プログラムの末尾に記す。

- (1) 外部専門家として関わるには(70)
- (2) 東京都の特別支援教育(90)
- (3) 学校における連携とは(40)
- (4) 学校における連携 肢体不自由特別支援学校における実際(60)
- (5) 学校における連携 知的障害特別支援学校における実際(60)

②人材育成のための研修会

研修会参加者
1日目 42名
2日目 53名
(両日参加者 32名)

平成 25 年度 東京都作業療法士会パイロット事業

第 1 回特別支援教育人材育成研修のご案内

東京都作業療法士会では、今年度パイロット事業として特別支援教育現場で外部専門家として働く作業療法士育成プログラムについて取り組んでまいりました。第 1 回研修会を以下の通り企画いたしましたので、ご興味をお持ちの皆様はぜひご参加ください。現在お仕事をされている領域は問いません。

一日目は、発達障害領域に関する基礎知識を計画しています。他領域の方で基礎から学びたいという方はぜひご参加ください。二日目は、外部専門家として特別支援学校で働く際には今持っている作業療法士としての専門性に加えて、新たな視点が必要ではないかと考えて企画した物です。一日のみの参加も可能です。

また、今回の研修はパイロット事業として企画されています。この研修プログラムが、実際に有益な内容になっているかの検証が目的です。参加された皆さんにはアンケートに答えて頂く形でご協力をお願いしたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

日時：平成 26 年 3 月 1 日（土）9：30～16：50

平成 26 年 3 月 2 日（日）9：30～17：00

会場：首都大学東京 荒川キャンパス 図書館棟 2 階 203 教室

参加費：無料 ※本研修会は生涯教育プログラムポイント対象研修会です。

プログラム

1日目 3月1日 作業療法士が特別支援教育に関わる際の基礎知識

9:30	9:40	インフォメーション パイロット事業の説明	パイロット事業責任者	司会 伊藤祐子
9:40	11:10	I 発達障害に関する基礎知識	うめだ・あけぼの学園	酒井康年
	休憩			
11:20	12:50	II 各種疾患に関する基礎知識	首都大学東京	伊藤祐子
	昼休み			
13:40	15:10	III アプローチ法に関する基礎知識	うめだ・あけぼの学園	酒井康年
	休憩			
15:20	16:50	IV 評価に関する基礎知識	首都大学東京	伊藤祐子



2日目 3月2日 作業療法士が外部専門家として活動するための必須知識

9:30	9:50	インフォメーション パイロット事業のねらい	パイロット事業責任者	司会 伊藤祐子
9:50	11:00	I 外部専門家として関わるには	うめだ・あけぼの学園	酒井康年
	休憩			
11:10	12:40	II 東京都の特別支援教育	東京都教育庁指導部 主任指導主事	山本 優
	昼休み			
13:30	14:10	III 学校における連携とは	首都大学東京	伊藤祐子
	休憩			
14:20	15:20	IV 学校における連携 肢体不自由特別支援学校における実態	都立志村学園	波多野裕子 田中節子
	休憩			
15:30	16:30	V 学校における連携 知的障害特別支援学校における実態	都立品川特別支援学校	小野寺泰子 秋山綾子
16:30	17:00	質疑応答 と まとめ		伊藤祐子



参加申し込み方法：①氏名、②所属、③OT 会員番号、④参加日（両日、1 日目のみ、2 日目のみ）、⑤所属の都県士会と今年度の会費納入済みかどうか、⑥連絡の取れるアドレス（スマホ可・携帯不可）を記入してメールで申し込んでください。

申し込みアドレス：toshikaipilot@yahoo.co.jp （～2 月 25 日締め切り）

研修会の様子



研修会実施後アンケート(1日目)

- 特別支援教育に関わる際の基礎知識(1日目)の研修会に関する意見では、**研修会の継続開催を望む声が多く、入門と実践(実践者)に分けた開催、在宅でも受講できるシステム、時間数増や定期的あるいは細切れなど、開催方法についての様々な提案があった。**
- 1) 研修内容に関する意見: 基礎知識の内容以外に追加するものとして
学校の様子・現状を知る情報、**教員から現状や外部専門家に対する要望を直接聞きたい**、学校での外部専門家としての実践例、病院での仕事との違いを知りたい など
- 2) 『基礎知識』については、正常発達に関する内容や導入と実践に分けた確認を求める意見もあった
- 3) 事例での実践紹介には、現場での実践がイメージしやすいように**具体的支援方法をビデオなどの映像利用した情報提供**を望む意見があった
- 4) 他分野からの受講者の意見には、「基本的には身障領域と対象者と関わる時の考え方や姿勢は変わらない」「子どもを対象とするときの独特さがあったと思うので、その視点を教えてほしい...今回はその内容になっており興味深かった」との記載もあった。
- 5) パイロット事業に関しては、**教育分野への入職方法、人材育成や入職後のフォロー体制に関する意見**があり、参加者の多くが**特別支援教育に関わる仕事に興味を持っていることが分かった。**

結果の詳細は報告書をご参照ください。

研修会実施後アンケート(2日目)

- 2日目終了後の研修会に関する意見では、一日目同様に**研修会の継続開催を希望**する意見と東京都の特別支援教育制度について知る機会を得られたことが有益であったとの感想とともに下記内容の意見があった。特別支援教育に関わる仕事への興味を持っており、そのための人材育成に関する種々の提案があった

1) 人材育成に対する提案

都の教育システム、教育の世界の常識についての講義、他職種の外部専門家の話(OTとの連携)、特別支援教育コーディネーターとのコラボ研修、教育側(教員側)からの講義、グループワークやシミュレーション、アドバンスコースなど

受講生は、講義に加えグループディスカッションや作業療法士以外の学校関係者を講師とした企画を期待していることが分かった。

2) パイロット事業に関する意見

研修会の企画実施方法に関する事、広報に関する事、人材の育成や選定、フォロー体制に関する様々な意見の提案があった。

広報の方法(早く、広く...、開催の継続および定期的開催、時間数増、細切れ開催...、在宅でも受講できるシステム、特別支援教育に関与している人たちの集まり(事例検討・勉強会、情報交換、相談し合える場など)、外部専門家の育成には、経験年数など、条件が必要ではないか など

受講生は、特別支援教育に作業療法士が関わることは必要であり、そのための人材育成や継続して働く支援システムを都士会に期待していることが分かった。

③派遣人材バンク登録モデルおよび オンラインリカレント教育(案)

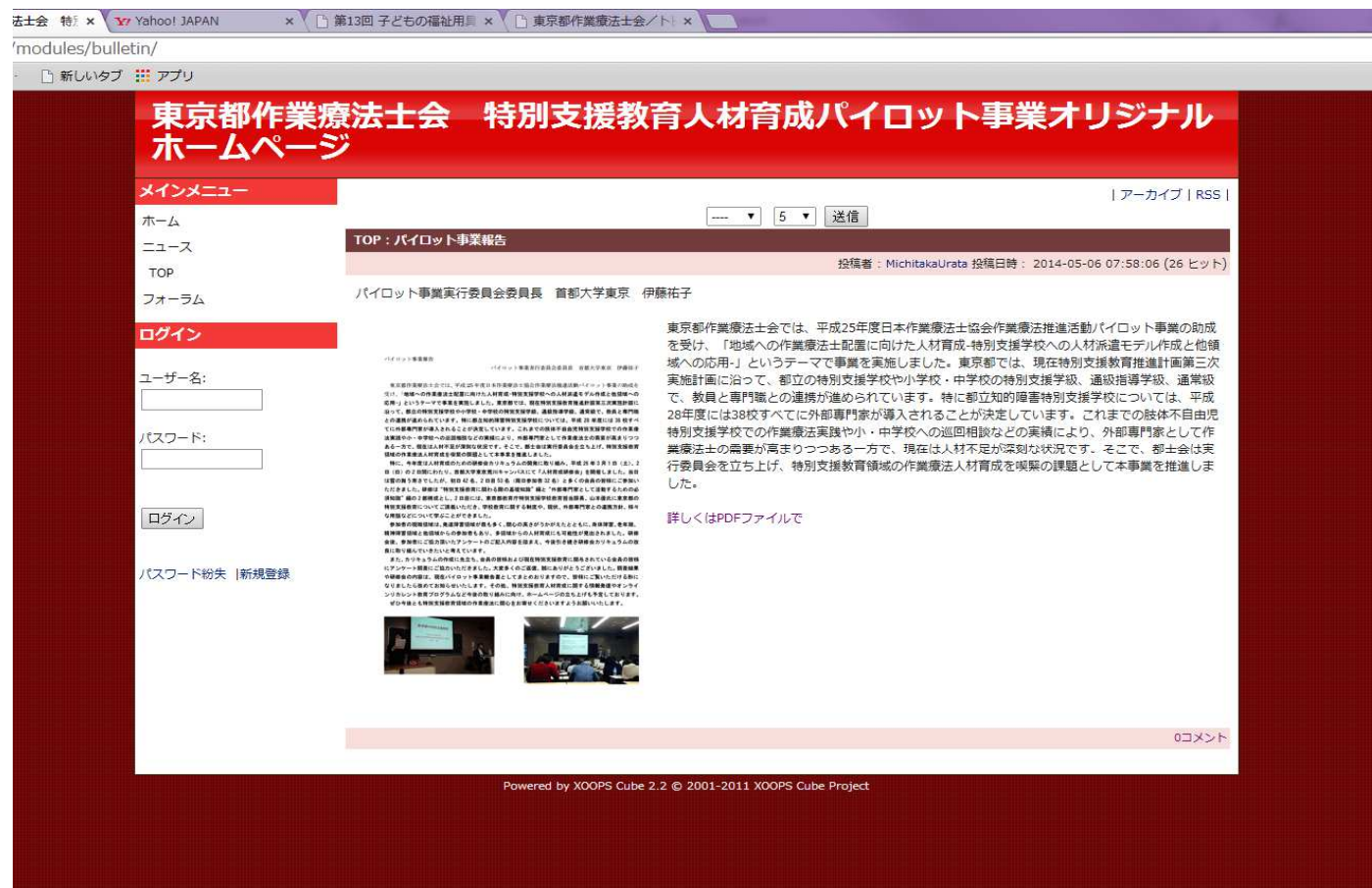
- 専用ホームページを作成し、都士会会員にアナウンスするとともに、アクセスした会員が、ホームページ上で会員として登録できるようにする
- 東京都教育委員会やその他の地域事業者からの求人要請も、ホームページ上で受け付け、条件に応じて人材バンクから適切な会員を派遣する
- 子育てや介護などの諸事情により、決まった日時、場所で開催される研修会に参加しづらい在宅会員が、研修を受けられるようリカレント教育プログラムのオンライン化を実施する

キッズフェスタアンダー18における広報

- 事業トータルの成果として期待される、特別支援教育領域における外部専門家としての作業療法士の連携推進は、長期的視点に基づく作業療法士の職域拡大、雇用の創出につながるものであることから、児童・生徒、保護者、教員が多数来場する「キッズフェスタアンダー18」に、東京都作業療法士会として出展し、本パイロット事業の取り組みを紹介し、アピールした



別支援教育人材育成に関するホームページ開設



ホームページ試案1の画面 今後必要な情報や機能を追加していく予定

事業のまとめ①

人材育成のためのカリキュラム作成について

「基礎知識編」と、「必須知識編」からなる2日間、計9科目のカリキュラムを作成した。

特に、学校制度の理解を深めるような
カリキュラムを工夫した

小児や発達障害領域の経験がない会員の人材育成における、
基礎知識の内容と研修の方法が示唆された。

より具体的にわかりやすく、イメージしやすい
カリキュラム

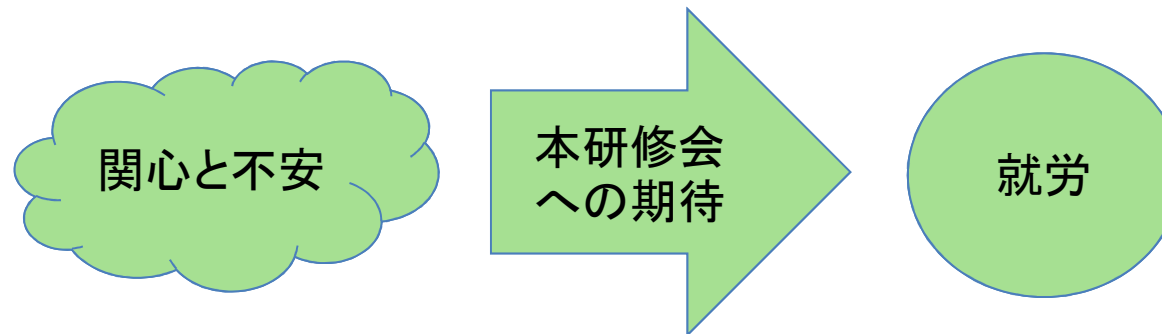
現場での実務教育（On the Job Training）
既存の研修の活用

事業のまとめ②

②人材育成のための研修会の実施について

- 全会員へのアンケート調査より

回答者の約8割が研修会への参加を希望しており、関心の高さがうかがわれた。しかしその一方、今後特別支援教育領域で働くことへの不安もあり、本研修会への期待がうかがわれた。

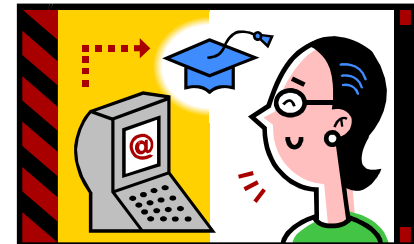


- 研修会当日の参加者は、現在発達障害領域で働く会員の参加が最も多かったが、**身体障害、老年期、精神障害領域と他領域からの参加者もあった。**
- 研修会終了後のアンケートでは、**研修会の継続的实施、年複数回の開催、在宅で受講できるシステム等への要望**があり、今後も都士会が継続的に研修を行っていくことが求められていた。

事業のまとめ③

③派遣人材バンク登録モデルおよびオンラインリカレント教育事業について

- 本事業に関しては、今年度中の完成は困難であった
- ホームページを立ち上げ、そこに含めるコンテンツをとシステムを構築中
- 研修会前後のアンケート結果からも、特別支援教育分野への興味関心の高さがうかがわれ**人材バンクへの登録希望者の潜在性が示唆された**
- 会場に足を運ばず**在宅で受講できるシステム**への要望
- より**早く広い情報発信**などが求められていた



今後について 都士会事業として継続

①研修会カリキュラムの再検討

今年度の結果を反映させ、カリキュラムはより効率的かつ充実した内容へと構築する。

②研修会実施

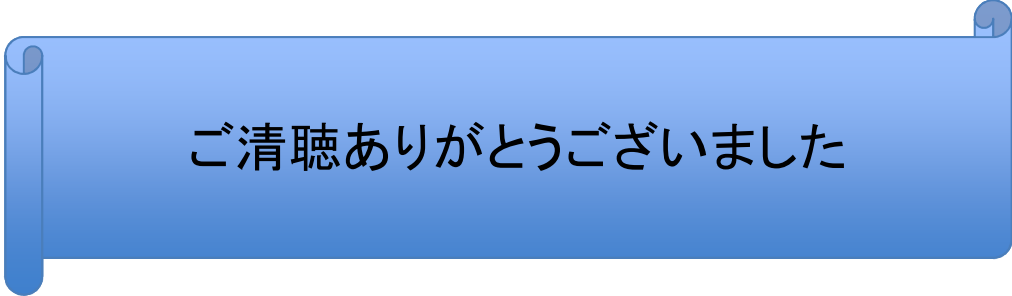
研修会は年1回程度の開催を予定する。

③派遣人材バンク登録モデルおよびオンラインリカレント教育事業の実施

都士会ホームページにリンクさせる形式で活用できるようにする。

おわりに

- 平成24年度に東京都教育庁の都立知的障害特別支援学校における外部人材の導入に関する検証委員会が設置されたことを受け、東京都作業療法士会では今後の人材育成について新たに検討を始めなければならないと考えていた時期に、本事業に採択され、実施できたことは、非常に時宜に合った取り組みを推進できた点で意義深く感謝している。
- しかし、まだ事業は端緒を開いたばかりであり、これからの取り組みがますます重要であろうと感じている。今後とも、本事業の結果を活かし、わが国の特別支援教育に関する社会情勢を掴みつつ、日本作業療法士協会の取り組みと連携しながら、東京都作業療法士会の活動を継続、発展させていきたいと考える。



ご清聴ありがとうございました

本事業にご協力くださいました東京都作業療法士会すべての会員の皆様
心よりお礼申し上げます。

また、研修会の実施に関しては

山本 優氏(東京都教育庁指導部特別支援学校教育担当課長)、
田中節子氏(東京都立多摩桜の丘学園外部専門家 作業療法士)、
秋山頼子氏(東京都立品川特別支援学校外部専門家 作業療法士)に
ご協力をいただきました。改めて深謝いたします。